



地域で子どもたちを育もう！



「高学年のようになりたい！」

— 瀬ヶ崎小学校放課後キッズクラブ（神奈川県） —



「下級生は上級生の背中を見て育ってほしい」と語るのは、主任指導員の船越瞳さん。2008年9月に開設されたばかりの、財団法人横浜市青少年育成協会瀬ヶ崎小学校放課後キッズクラブは思い切り遊ぶ子どもたちの声で溢れていた。

（取材・文／井上達也）

学校や地域の協力を得て

高学年はまだ6時間目の授業中だが、授業を終えた1〜4年生が体育館に移動し始めた。「同じ瀬ヶ崎小の子どものためだからと、空いている施設は貸してくれます」と、船越さんは協力的な学校の姿勢を教えてくださいました。囲碁クラブなどのプログラムにはボランティアも加わり、地域の協力の

輪が着実に広がりにつつある。

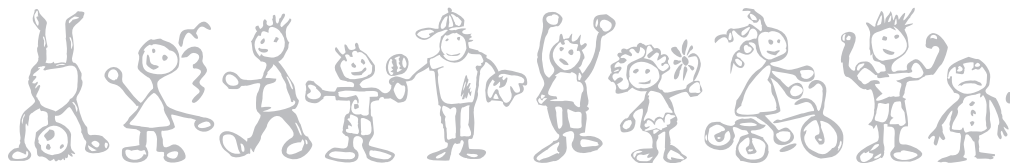
今年2月、横浜市青少年育成協会のドッジボール大会があった。「自分たちは弱くない、練習と経験が足りないのだ」の声から、保護者や地域のスポーツ好き、体育指導員をコイチに、月に1回土曜日、「ドッジボール基礎講座」も誕生した。

高学年への憧れが子どもを成長させる

取材日のプログラムはドッジボールであった。今日はリーダーである5、6年生が委員会の日でもまだ来ていない。代わりに4年生の男子が一生懸命作戦の指示をしていた。あとで「うまく教えられなかった」と船越さんにささやいた。「5、6



ドッジボールは人気のプログラム。40人以上参加する日もある



年生のようにうまく説明できなくて悔しかったようです」。瀬ヶ崎小放課後キッズクラブでは、高学年の児童が、いろいろな場面でリーダーとして活躍する。その姿を見て憧れ、いつかは上級生のようにになりたいと、下級生は努力する。5、6年生が加わると、体育館は一気にヒートアップ。思い切り、汗だくになって遊べるドッジボールは、高学年に一番人気のプログラムである。1年生は、6年生の投げ迫力あるボールを見て「すごい」と歓声を上げた。

5、6年生を引きつけるプログラム



瀬ヶ崎小放課後キッズクラブは、「子どもたちが思い切り遊び、真剣にいろいろなことを感じ、そしてできることなら楽しんでもらいたい」ことをクラブの目標としている。高学年児童の参加が多いのが特色だ。

子どもたちの要望を取り入れた「ビーズのアートリ工」は、高度なものほど挑戦心が生まれ、高学年を引きつける。作り方を覚えた上級生は、次回

の先生となる。5年生の「ごっこ遊び」から始まった「演劇部クローバー」は、同キッズクラブが年1回行う文化祭（はるまつり）で下級生を巻き込み、自分たちの力で上演した。思い切り力を出せ、かつハードルの高い遊びほど、高学年に人気があり参加率も高い。

安全性とチャレンジのせめぎ合いだが、子どもの成長のためには必要と、保護者に十分な理解を求めプログラムの幅を広げている。

下校時にもかかわらず、まだ遊びたい1年生が校庭に出たが、世話好きの女の子が連れ戻しに行った。「子どもたちはわずかの間に成長するものです」と言った船越さんの言葉が心に残った。



演劇部クローバーの熱演。体育館の舞台上で頑張る